



# 年頭のごあいさつ

New Year's greetings



## 住民との協働による町づくり

只見町長 目黒吉久

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、つつがなく輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。この機会に、日頃町政にお寄せ頂いておりますご支援ご協力に対し心から感謝申し上げます。

昨年は、世界的な金融危機に端を発した厳しい経済情勢により、私どものような中山間地域への影響は大きく、生活や生産の現場でも不安を抱え閉塞感が漂いました。今なお国、地方ともに経済不況と雇用不安の状況から抜けきれないでいます。このような中で昨年、只見町は町制施行五十周年を迎えました。町は、この記念すべき節目の年を、町制施行五十周年記念の年と位置付け、町民の皆様と共に五十周年を祝い、更なる町政発展を期するため年間を通して記念事業を実施してまいりました。町の誕生日である八月一日には、多くの町民の皆様と来

賓のご臨席のもと「町制施行五十周年記念式典」を挙行し、更なる町勢発展に向けて町民の皆様と手を携え最善の努力をして参る決意を新たにいたしましたところであります。

私は、五十年に及ぶ只見町の歴史を振り返るとき、先人のご努力に対し深く敬意と感謝を申し上げますと共に、これまで受け継がれてきた、自然・歴史・文化・暮らし・産業などの地域特性を活かした山村に住む者として、本来の人間としての誇り、地域としての価値観を築き、内発的な産業を興してゆく事が大切であると考えます。そのため次のような政策を柱に取り組みみます。

第一は「農業を中心として、商・工・観光業への連鎖を引き起こす付加価値の高い産業の構築」です。そのために、農業の担い手確保と周年栽培の可能性を求めて、耐雪型施設の設置と試験栽培に取り組みたいと考えま

す。又「ただみ・ブナと川のミュージアム」を拠点に、観光まちづくり協会など関係機関と協力をしながら、本町の豊かな自然を活かして人・観光交流施設・資源の連携強化を進め、集客力の向上を図ります。

第二は、「次代を担う子どもたちの健やかな成長を願い、「自然首都・只見」にふさわしい人づくり教育の推進」であります。地域づくりは人づくりにあるといわれる中で、本町の豊かな自然を活かしながら、逞しい精神と身体を備えた只見っ子を育てていきたいと考えます。更にはその成果を都会へ向けて伝える機会をつくり、本町が「自然環境教育」の拠点となるべく教育旅行の推進を図って参りたいと考えます。

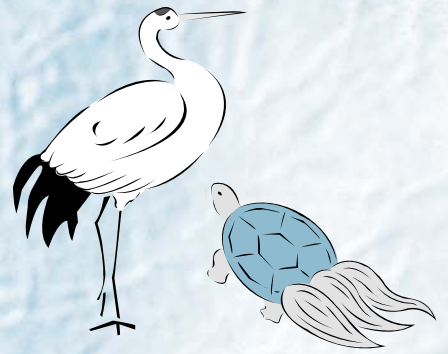
第三は、「保健・医療・福祉が一体となった元気なまちづくりの推進」です。乳幼児からお年寄りまで、全ての住民が住みなれた地域で健やかに、生きが

いを持って、安心した生活を送るために関係機関の連携による地域包括支援システムの構築を推進して参ります。また、地域医療の中核である朝日診療所は現行の医師三人体制を堅持しながら、安心して診療を受けられるように、更なる機能の充実を図ってまいります。

町長に就任して二年が過ぎました。町民から負託された事実の実現のために、町民の皆様と共に力を合わせ、住み良い町づくりに真剣に取り組み、その実現に全力を傾注して参る所存でありますので、町民各位のご理解とご協力をよろしく願います。

結びに、平成二十二年の皆様にとりまして素晴らしい一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。





# 町民の命と暮らしを守る

## 町づくり

只見町議会議長 齋藤 邦夫

新年明けましておめでとうございませう。只見町議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、只見町は、「町制施行五十周年記念式典」を始め、一年間にわたって各種記念イベントが実施されました。私達は、先人の町づくりに対する情熱を忘れることなく、記念すべき節目の年に、町勢の限らない発展を誓い、決意を新たにしました。さて、国・内外に目を向けると、自然災害を誘発する地球温暖化の問題や、新型インフルエンザが全世界に猛威を振るい、また、国政は民主党が圧勝し、地域主権、脱官僚政治を掲げた鳩山内閣が誕生いたしました。行政刷新会議による事業仕分けやマニフェストの実行を国民は期待し、新しい年明けを迎えま

した。国内経済は、一昨年来の世界同時不況の影響を受けて、国の追加経済対策にも係らず著しい円高や株安が進行して、先行が不鮮明となりました。

本町の産業経済は、長年にわたり町民所得の場として依存してきた公共事業の大幅縮小、農産物の価格低迷、更には観光客の減少など、「景気の停滞」が続いております。基幹産業である農業は、天候不順にも係わらず、米、トマト、花きの作柄は平年作を保ちましたが、年々進む生産者の高齢化、新規参入者対策など、今後の農業振興を図る上で避けて通れない大きな課題と考えます。一方、新たな観光交流の拠点として「ただみ・ブナと川のミュージアム」が開館いたしました。只見の貴重な自然が都市と山村の人々の交流や、児童生徒の教育の場として注目され、環境保全と併せた地域づくりが、要請されているも

のと考えます。また、朝日診療所は、昨年四月から常勤医師三名と更に整形外科医の外来診察や、歯科診療と合わせて一段と充実して参りましたので、長年の懸案である保健、医療、福祉が連携する町民サービスの向上が期待される処であります。

さて、町政は明るい未来を展望すると共に、着実な施策の実行が望まれます。只見町は、国道二八九号・八十里越の開通によつて、日本海経済圏と太平洋ベルト地帯を結ぶ奥会津交通の要衝として、地域発展に与える「インパクト」が大変大きいため、関係市町村が一丸となつて、早期開通を実現し、只見町に明るい未来と可能性を切り開いて行かなければならないと考えます。また、本町経済の自立をめざして、地域資源を活用した第六次産業の振興と、少子高齢化に起因する出産育児、教育環境、高齢者福祉、更には集落コミュ

ニティ対策など、当面する町民生活に密着した、実効性の高い施策の推進が急務と考えます。

さて、地方分権社会が進む中で、自治体の運営は、「自己決定・自己責任」が求められる、議会は意思決定機関として、その役割と責任が益々重くなつて参りました。只見町議会は、他町村に一步先駆けて「通年議会」を試行し、議案の慎重かつ迅速な審議に努めるなど、議会の役割を果たすための改革に取り組んでおります。議会は町当局と共に町政を担う両輪として、「町民の命と暮らしを守る町づくり」を目指して、議員一同、誠心誠意努力して参る所存でございますので、町民皆様のご指導・ご支援を宜しくお願いいたします。結びに「新しい年」が、皆様にとりまして素晴らしい年になりますよう、お祈り申し上げます。頭のご挨拶といたします。